



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/24 (月)	+ 200	+ 11,300	+ 11,500	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 + 600		
8/25 (火)	+ 500	▲ 2,500	▲ 2,000	国債発行 (GX10年)			米：消費者信頼感指数 (8月)
8/26 (水)	トン	+ 2,000	+ 2,000				米：GDP (2Q改定値) ：PCE (7月)
8/27 (木)	▲ 500	▲ 4,500	▲ 5,000	流動性供給			日：日銀の水見野副総裁が埼玉県金融経済懇談会で講演 米：ジャクソンホール会合
8/28 (金)	トン	▲ 1,000	▲ 1,000				日：外国為替平衡操作の実施状況 (月次ベース、7月30日～8月26日) ：失業率 (7月) ：有効求人倍率 (7月) 欧：ユーロ圏消費者信頼感指数 (8月)

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比6,100億円減少の425兆円から始まった。その後、国債発行や各種財政資金の支払い等の要因により増減し、21日は423兆9,100億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.977%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。

ターム物は1W～3W物0.982%～1.115%のレンジ、1M～3M物1.060%～1.310%のレンジで出合いが見られた。

来週の予定は、国内では27日に日銀の水見野副総裁が埼玉県金融経済懇談会で講演、28日に外国為替平衡操作の実施状況の公表、海外では26日に米PCE（7月）、27日から29日までジャクソンホール会合の開催などがある。

【無担保コールレート】

	予想レンジ (%)
O/N	0.950 ～ 0.978
1M	1.05 ～ 1.15
2M	1.15 ～ 1.30
3M	1.30 ～ 1.40
6M	1.40 ～ 1.60

＜レボ＞

足許GCは週を通して1.000%～1.005%の狭いレンジでの出合いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年484～487回債、5年180～186回債、10年361～372、379～383回債、20年194～197回債、30年87～90回債などに引合いが見られた。

【オープン市場】

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.90台
CP 3M (a-1+)	1.2 ～ 1.3

＜CP＞

今週の入札発行総額は1兆9,735億円で、週間償還額の1兆8,955億円を上回った。発行残高は、先週末時点の25兆2,985億円から、8月20日時点で25兆4,511億円へと増加した。発行市場では、ガス業・ゴム製品・小売業をはじめとする幅広い業種で、夏季休業明けに伴う大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.0%台から1.1%台、3ヶ月物で1.2%程度から1.3%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約3兆3,000億円となっている。発行市場は、月末に償還を迎える大型案件において、相応のローリングが見込まれることから、活況なマーケットが予想される。発行レートについては、日本銀行による利上げ継続姿勢が示されていることから、水準を探る展開が続くだろう。

＜TDB＞

19日の1Y（第1401回債）の入札は、最高落札利回り1.4404%（前回債1.2168%）、平均落札利回り1.4332%（前回債1.2066%）となった。

21日の3M（第1402回債）の入札は、最高落札利回り1.0900%（前回債1.0979%）、平均落札利回り1.0816%（前回債1.0919%）となった。

来週の入札は28日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。